研究の成果

「紀の輝」の秋まきハウス冬春どり栽培における播種日および仕立て本数

１．はじめに

実エンドウ新品種「紀の輝」は、秋まきハウス冬春どり栽培において「きしゅううすい」と同時に播種して通常の栽培管理を行うと、45日程度早期からの収穫が可能です。しかし、一方では、草勢の低下による減収が懸念されます。そこで、この作型における「紀の輝」の最適な播種時期および仕立て本数を検討しました。

２．試験方法

「紀の輝」を2002年9月10日、9月24日、10月8日に播種し、仕立て本数を20,25,30本/m（側枝除去）として栽培しました。うね幅は160cm、夜間最低5℃加温としました。対照として「きしゅううすい」を同時期に播種し、仕立て本数を20本/mとして3～8葉期に電照を行い栽培しました。

表１　は種日と主枝仕立て本数が収量および品質に及ぼす影響

処理区 品種	播種日（月/日）	主枝仕立て本数[Z]（本/m）	収量（t/10a）	上物率[Y]（%）
「紀の輝」				
	9/10	20	2.0	79.5
		25	1.5	74.4
		30	1.6	69.5
	9/24	20	2.4	77.2
		25	2.9	71.2
		30	2.1	65.5
	10/8	20	2.3	59.1
		25	2.4	67.2
		30	2.3	58.5
「きしゅううすい」				
	9/10	20	1.8	58.0
	9/24	20	1.4	54.3

Z:1mあたりのツル本数．ただし側枝は全て除去した．
Y:上物率＝(上物莢の重量)／(総重量)×100．
上物莢は，子実が4粒以上で極端な欠粒のない莢．

３．試験結果

「紀の輝」は、9/10播種で収量が少なく、9/24以降の播種で多収となる傾向が認められました（表１）。9/10播種で12～2月、9/24播種で2～3月、10/8播種で3～4月に収穫最盛期を迎えました（図１）。仕立て本数については、9/10播種では20本/m、9/24播種では25本/mで多収となりました。莢品質について、9月播種では仕立て本数の少ない方が上物率が高まる傾向となり、10/8播種では明らかな傾向は認められませんでした。また、「紀の輝」は、「きしゅううすい」より上物率が高く、収量については9/10播種で「きしゅううすい」と同程度、9/24日播種で「きしゅううすい」より多収となる傾向が認められました。

４．まとめ

「紀の輝」は、12～2月に多収をねらう場合は9/10播種で20本/m、総収量および2～3月の多収には9/24播種で25本/m、3～4月の多収には10/8播種で25本/mが、それぞれ適当と考えられました。

（園芸部　川西　孝秀）

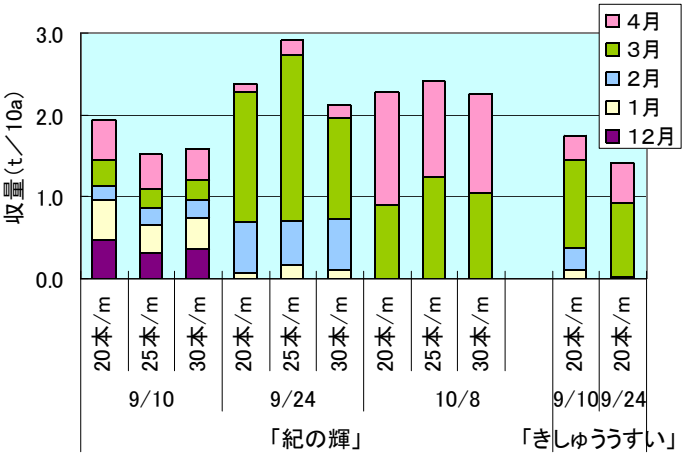

図１　は種日・主枝仕立て本数と月別収量